

第155回エイズ動向委員会
委員長コメント

《令和元年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和元年の約1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、903件（過去20年間で、14番目の報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、333件（過去20年間で、17番目の報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は、1,236件（過去20年間で、14番目の報告数）

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが651件（全HIV感染者報告数の約72%）
 - 異性間性的接触によるものが136件（全HIV感染者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは2件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが180件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが56件（全AIDS患者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況（令和元年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は142,260件（過去20年間で、5番目の件数）
2. 保健所等における相談件数（確定値）は129,695件（過去20年間で、15番目の件数）

《まとめ》

1. 令和元年の新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は、平成29年より減少しており、3年連続での減少となった。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。
3. 献血における10万件当たりの陽性件数は昨年と比べて同数であった。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を利用いただきたい。
4. 新規報告数全体に占めるAIDS患者報告数の割合は、依然として約3割のまま推移している。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。
5. HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくため、重要となる。国民の皆様には、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。